# 花で矢板をアピール

## デザインからディスプレーまで

## 矢板市生花商組合

**◆花フェスタで、矢板市のブースとして割り当てられた会場に花壇を作ることになり、県と市に依頼された矢板市の生花店５店舗が、急きょ、矢板市生花商組合を設立し、力を合わせることになった。**

◆奥行き二メートル五十センチ、幅十四メートルの大きな花壇は、宇都宮花き地方卸売市場の方々の協力もあり総勢十五名ほどで完成させた。

◆「今回の作品で、オブジェを支える材料が不足して、百パーセントの満足が得られなかったのが残念」と高橋さん。

「矢板市の花フェスタに、若い年代の入場者が少なかったので、この行事をアピールするために、さらに広報に力を入れて欲しい」と、根本さん。

◆今まで、矢板市には生花商の組合が無かったので、今回の催しは、横の連携を取る良い機会となった。今後の展開が期待される。

（K・H）

◆矢板市をアピールするものにしたいと組合員が話し合って、長峰公園のツツジ、高原山の風景や、特産のリンゴ、寺山の小滝などを表現することにした。この花壇のデザインを手がけたのが、花美（はなよし）の、高橋一美さんと、花忠（はなちゅう）の根本君味子さん。二人のデザインの良いところを用い、合作した。

# 花フェスタには小学校も参加していました

**花フェスタにプランターの寄せ植えを展示していた乙畑小（藤田先生）と豊田小（小島校長先生）にお話を聞いてみました。寄せ植えの作り方や管理の仕方は、県のハンギングバスケット協会の方々が来て、子どもたちを指導して下さったとのこと。**

**●乙畑小の子どもたちは花を育てるのが大好き**

乙畑小は、全校生五十八人の小規模校です。四季を通じていろいろな花の世話、野菜作りや地域の方を交えた秋の収穫祭など全校生徒が協力し合って取り組んでいます。

寄せ植えの話があった時、一年を通じて緑化活動をしていることや、スポレク祭でのプランターづくりの経験があることなどから引き受けることにしました。子どもたちは、初めての寄せ植えづくりに目を輝かせながら一生懸命取り組んでいました。

**●児童たちの感想**

四年生から六年生まで校庭に出てきて「きれいに出来てよかった」「目立ってくれるといいな」と、元気に話してくれました。

**●花フェスタで発表した「ひまわりいっぱい活動！」**

ひまわりの種まきから花が咲くまで、全校生徒にそれぞれの役割があり、協力する心、最後まで頑張る心が培われたこと、葉や花と太陽との関係の観察などが発表されました。

ひまわりを育てる効果はそればかりではなく図工や国語の授業にも生かされています。

「小さな芽　大事に育てる　僕たちが」六年生の五七五作文の作品です。

きれいに植えよう

**●豊田小は全校生で植えました！！**

全校生三十三人、職員十二人みんなで花を植えたり、花壇の手入れをしています。いろんな種類の花が一年中見られるよう学校全体で楽しみながらやっています。そんな折、市の教育委員会のほうから花フェスタのお話があり、日頃の情操教育にもつながる良い機会と思い参加することにしました。県のハンギングバスケット協会の方たちの指導で、全校生分三十三鉢の寄せ植えを一月二十三日にしたのですが、毎日の厳しい寒さで駄目にしてしまうのではと二月六日の搬入の日まで管理にとても気をつかいました。（外に出てプランターをみると寒さよけが置いてあり、夜はそれで覆うなど工夫されていました）

**●児童たちの感想**

「花の向きを考えて植えた」「バランスに気をつけた」「一生懸命植えたので見てくれた人が喜んでくれると嬉しい」など昼休みの教室で六年生が話してくれました。

寒さ対策も万全に

この木どっちむき

**二校とも少人数の学校ならではの団結力、温かさが感じられる取材でした。（K&H&Y・M）**